

アートの力で人とつながる多様な人材の育成

**赤字** 卒業必修科目  
**赤枠** 履修必修科目  
**社会実装科目**  
 (産学連携含む)  
 企業、自治体と連携し提案・実現する授業

(A)アートで生きる	(B)アートを活かす	(C)アートと共に生きる
表現者、アーティスト、大学院陶芸家、彫刻家、デザイナー	学芸員、教育者、美術館・ギャラリー勤務、造形業、造園業、教員、造形教室主宰、舞台美術、ゲームデザイナー、地域おこし協力隊事業	起業、各種製造業、販売業 IT関連、広告関連・留学、専門学校

4 回生  
後期  
●4年「応用」独自の表現を深める

前期

3 回生  
後期  
●3年「表現と思考」専門性の高い多様な表現の習慣

前期

2 回生  
後期  
●2年「技術」専門技術とPCスキルの修得

前期

1 回生  
後期  
●1年生学習習慣の徹底と基礎力の養成

前期

卒業展・東京展			社会的自立へ
卒業研究・制作	制作研究の集大成 I	創造表現XI (制作研究の集大成 II)	豊かな個性の確立
創造表現IX (ゼミ展のプランニング)	卒業研究 (ゼミ・キャリア)	創造表現XI (作品出品と展示)	
創造表現VIII(キャリア)	企業訪問「武田薬品、サンドイッチ工房等」	学外演習	進路決定
創造表現V (各自のテーマに基づく制作)	創造表現VI (制作研究ノート)	創造表現VII (進級制作(マロニ工展)展示出品)	
創造表現IV(キャリア)	ポートフォリオ作成	学科合同キャリア授業・進路研究	プレゼンスキルの向上
創造表現I (3Dの実習)	創造表現II (学科展(制作・展示計画))	創造表現III (学科展(展示空間の構成))	
創造演習VIII(キャリア)	ポートフォリオ作成	アーカイブの制作	社会性の向上 学生作品展
創造演習V (フィギュア制作)	創造演習VI (インスタレーション設置・空間の構成)	創造演習VII (進級制作基礎課程の集大成)	
創造演習IV(キャリア)	ポートフォリオ研究	技法研究(土による造形)	ポートフォリオ作成 マイアーカイブ展 インターン
創造演習I (表皮-塗装塗装・木工の実習)	創造演習II (技法シリーズ複数技法の選択実習)	創造演習III (メディアアートグループ制作)	
総合造形基礎VIII(キャリア)	基礎デッサン	人体クロッキー	様々な生き方を知る
総合造形基礎V (温度-木木彫の実習)	総合造形基礎VI (場-金属鉄彫の実習)	総合造形基礎VII (進級制作基礎課程の集大成)	
創造基礎IV(キャリア)	修学素養、京都研修	PC演習(フォトショップ、イラストレーター等)	将来に向けて行動開始 自己を見つめる
総合造形基礎I (触-土手ひねり、タタラの実習)	総合造形基礎II (学科ファウンデーション)	総合造形基礎III (見る-身体首像・型取りの実)	

教職(小・中・高)・学芸員課程

将来の夢を育む  
共同作業の喜びを知る

他者・社会を知る

ロールモデル研究

※赤字は履修必修科目

【1-b】 美術工芸学科 コース共通科目カリキュラムマップ

科目名	講義種別	履修学年	開講期	単位		テーマ	授業概要	到達目標	探究力	思考力	発注・構想力	表現力	行動力	継続力	コミュニケーション力						
				必修	選択																
美術概論Ⅰ	講義	1年以上	前期	2		西洋美術の歴史	こんにち「名作」とされる美術作品は、どのように誕生し後世に受け継がれてきたのでしょうか。この授業では、古代から20世紀半ばにおける西洋美術作品を取り上げ、その様式の変遷の理解を目標とします。作品の背景となる西洋の社会および思想にも焦点をあて、歴史的観点から作品への理解を深めます。	西洋美術の作品の基本的な見方と、大きな美術史の流れを身に付け、様々な時代背景をふまえて作品を見る目を養うことを目標とする。	30	60	40	80	0	0	0	30	60	0			
美術概論Ⅱ	講義	1年以上	後期	2		西洋美術の歴史：20世紀美術を中心に	みなさんと一緒に、美術史上の作家たちも、与えられたそれぞれの時代の中で作品を生み出してきました。この授業では、美術概論Ⅰで概観した西洋美術史をより深めるとともに、西洋と日本の20世紀美術の流れを学びます。なかでも作家の生涯とその作品の変遷に焦点をあて、世界大観のはざま、彼らがどのように制作と向き合ってきたか考えることを通じて、作品理解を深めます。	西洋美術史を身につけるとともに、近代以降の日本作家がどのように西洋美術に對峙してきたか、時代背景をふまえて作品を見る目を養うことを目標とする。	30	60	40	80	0	0	0	30	60	0			
工芸概論Ⅰ	講義	1年以上	前期	2		日本近代の工芸	近代日本の工芸の作品を社会背景の関連とともに紹介する。特に後半は、民藝の展示施設を具体例として、生活、文化、社会との関係を意識しながら工芸に対する概念の考察を深めていく。	ものづくり」に携わる者として、「もの」の存在意義について考えるきっかけをつかむ。	30	60	40	80	0	0	0	30	60	0			
工芸概論Ⅱ	講義	1年以上	後期	2		鑑賞能力の育成	身近にあるものを取り上げ、外見や制作工程、歴史や思想など多角的に鑑賞を行う。その題材として、工芸品に限らず、映像や印刷の技法、イラストなども取り上げる。	さまざまなものを鑑賞する能力を身に付けることで、自身のものづくりにおける視野を広げる。	30	60	40	80	0	0	0	30	60	0			
美術工芸史Ⅰ	講義	1年以上	前期	2		世界の都市問題と現代美術	現在、私たちがとりまく都市文明は具体的などのような姿で存在し、変化しつつあるのか。そして人間に対していかなる問題提起をはらんでいるのか。芸術と人間の基礎を形成するこの都市文明のアクチュアルなありようについて学ぶために、本講義では担当教員がそれぞれに体験してきた世界の様々な都市を紹介し、個別の体験を通して浮かび上がる都市や人間の問題について具体的に考察する。あたたか世界一周をすかのよう、地理的、歴史的な移動をダイナミックに繰り返しながら、より幅広く柔軟な視点で自身と世界を結び付け、思考し、現代の表現者となる若者が世界に向き合う表現を目指すようナビゲートしたい。	都市文明に関する基礎的な教養だけではなく、そこから人間や社会とは何かを主体的に考える力を獲得する。	40	80	40	80	0	0	0	20	40	0			
美術工芸史Ⅱ	講義	1年以上	前期	2		絵画史を西洋と日本の比較によって読み解く	西洋と日本との比較の観点から古代から現代までの絵画史を考察していきます。比較のテーマは、①歴史画、②宗教画、③肖像画、④風景画・自然描写、⑤静物画、⑥動物画の6つです。6つのテーマにおいて、両者にどのような相違があるのかを、代表的な作品を取り上げながら見ていきましょう。相違は、西洋と日本、それぞれの文化や、人々の考え方が反映されたものであるでしょう。そこに時代や画家の相違も見ていくことで、西洋と日本との比較によってそれぞれのテーマにおける問題点や工夫を知り、あなた自身の研究・制作のヒントを見つけ出しましょう。	授業で取り上げる6つのテーマに関する代表的な作品を知ること。また、それらの作品を西洋と日本との比較の観点から理解し、論じられるようになること。	40	80	40	80	0	0	0	20	40	0			
美術工芸史Ⅲ	講義	1年以上	前期 2019年度は夏期集中	2		日本染織文化史	日本の服飾と染織文化についての講義である。古代中国で創始された絹織物は、シルクロードを通り世界各地に広まった。日本の服飾文化も、絹織物に支えられ発展してきたといえる。本講義では、シルクロードを通じて諸外国の文化を受容する様子や、着物が成立する過程など、絹織染織品を中心に日本の服飾と染織文化を通覧する。	日本の染織史の概略をつかむと共に、実物資料、絵画資料、文献からどのようなことが読み取れるのかを理解して基礎的な学力をつけることを目標とする。	40	80	40	80	0	0	0	20	40	0			
美術工芸史Ⅳ	講義	1年以上	後期	2		陶芸と彫刻に見る造形史	人類は有史以来、輝かしい文明を築いてきました。それに呼応して造形芸術の世界も大きく姿容を遂げてきました。洋の東西を問わず、地域、時代、社会を反映し、生活に根づいたものから芸術性、芸術性の高いものへと個性豊かな造形世界を構築しています。ここでは陶芸、彫刻による東西、時代の特性を比較研究、考察する。	古今東西の陶芸、彫刻を巡ることにより、その表現形式の変遷を考察することで造形の特質と社会との関わりを理解することができるようになる。	40	80	40	80	0	0	0	20	40	0			
表現研究Ⅰ	講義	3年以上	後期	2		造形美術にみる素材と技法の展開	われわれを取り巻く日常は多くの造形作品に満たされています。完成度の高い優れた作品は観る楽しみとともに想像をかきたて、生きる喜びを与えてくれます。そしてそれら、いずれの作品も厳選された素材と優れた技法により支えられています。これまで造形美術で培われた素材と技法を講義とワークショップによりその特性と機能について学ぶ。	造形作品と素材、技法についてその特性、機能を理解し、自らの専門分野として把握できるようにする。	50	100	0	0	0	0	50	100	0				
表現研究ⅡA	講義	2年以上	前期	2		入手可能な古典技法材料から最先端素材までを検証し、制作にフィードバックする	修復材料から最先端素材にいたる技法材料を西洋・日本美術史から学び、画材メーカーとの研究協力の実践講義を通じ自身の独自性ある表現を導く。	自身で画材や道具をカスタマイズし、入手可能な表現素材から独自の表現を導き出す。	40	80	0	0	40	80	0	20	40	0			
表現研究ⅡB	講義	2年以上	後期	2		入手可能な古典技法材料から最先端素材までを検証し、制作にフィードバックする	修復材料から最先端素材にいたる技法材料を西洋・日本美術史から学び、画材メーカーとの研究協力の実践講義を通じ自身の独自性ある表現を導く。	自身で画材や道具をカスタマイズし、入手可能な表現素材から独自の表現を導き出す。	40	80	0	0	40	80	0	20	40	0			
表現研究Ⅲ	講義	3年以上	後期	2		写真と芸術	必ずしも誰もが「写真家」になるわけでも、写真の専門家になるわけでもありません。しかし私たちがこの世界を認知するにあたって写真の存在がはた不可欠であるように、芸術を思考し志向するすべての人にとって、写真の存在を無視することはほぼ不可能です。そこでこの授業ではまず、写真と芸術がどのように接近し、反発しあい、相互に影響を及ぼしてきたかを歴史的に辿ります。そのうえで、ゲルハルト・リヒター、フィッシャー・ヴァイス、ソフィ・カルなど、写真をその表現手段のひとつとして柔軟に用いる様々なアーティストや写真家たちの作品を知ること。写真と芸術の関係を多角度から柔軟かつより深く考えられるようになることを目指します。	写真が芸術にどのような影響を与え、かつ今日いかなる意義をもつのかを主体的に考える力を身につける。	50	100	50	100	0	0	0	0	0	0			
表現研究Ⅳ	講義	1年以上	後期	2		繊維加工研究	染織テキスタイルの創作において必要不可欠な、染織材料、染料、加工（製織、染色）に関する基礎知識を体系的に説明します。ここでは、様々な専門用語がでてきますが、用語を単に覚えるのではなく、理解して覚えることに力を入れ、平易に解説します。新たな創作においてまず必要なことは、用いる素材、技法についての科学的な考察力です。	染織材料、染料、加工に関する体系的な基礎知識を得、染織テキスタイルに用いられる素材、技法について探求し、科学的な視点で考えるようになる。	40	80	30	60	0	0	0	30	60	0			
図学A	講義	1年以上	前期前半	2		「かたち」を思考、認識し、描き、伝達する。	古代ギリシャの時代から空間に存在する「かたち」を平面上に書き表し表現、伝達するために図形の性質を解析する方法を研究する学問が「図学」の始まりのひとつとされています。ルネッサンス期には透視図法（パース）を明確に表す絵画も現れ、時代ごとに様々な工夫を見出し絵画の発展とも深く関係する一面を持ちます。また「図」は「かたち」「空間」を時代、文化、言葉を超えて表現、伝達できる「視覚的共通言語」ともいえます。1. 講義では実際に作図を行うことで基礎的な図法を体験。・「かたち」を思考、認識・「かたち」を「図」で描くことで表現・「かたち」を「図」にすることで伝達2. 図法的基本的考え方を解説3. 過去の作品の図学的視点による解説 立体や空間を理解、認識する能力を養い、自己の創作活動で作品を表現、伝えるヒントとしてみてください。	・立体や空間図形の理解を深め空間の概念に対する認識力。 ・「図」による表現、伝達する能力。 ・「かたち」と「空間」の創造、シュミレーション能力。	0	0	20	40	0	0	30	60	0	0	0	50	100
図学B	講義	1年以上	後期前半	2		「かたち」を思考、認識し、描き、伝達する。	古代ギリシャの時代から空間に存在する「かたち」を平面上に書き表し表現、伝達するために図形の性質を解析する方法を研究する学問が「図学」の始まりのひとつとされています。ルネッサンス期には透視図法（パース）を明確に表す絵画も現れ、時代ごとに様々な工夫を見出し絵画の発展とも深く関係する一面を持ちます。また「図」は「かたち」「空間」を時代、文化、言葉を超えて表現、伝達できる「視覚的共通言語」ともいえます。1. 講義では実際に作図を行うことで基礎的な図法を体験。・「かたち」を思考、認識・「かたち」を「図」で描くことで表現・「かたち」を「図」にすることで伝達2. 図法的基本的考え方を解説3. 過去の作品の図学的視点による解説 立体や空間を理解、認識する能力を養い、自己の創作活動で作品を表現、伝えるヒントとしてみてください。	・立体や空間図形の理解を深め空間の概念に対する認識力。 ・「図」による表現、伝達する能力。 ・「かたち」と「空間」の創造、シュミレーション能力。	0	20	40	0	30	60	0	0	0	50	100		
美術各論	講義	2年以上	前期	2		創作者の思考と実践（美術工芸学科教員の研究から）	創作者の思想や制作態度を様々な領域から示す授業。学科専任教員による創作論をオムニバス形式で展開し、様々な分野の制作・研究内容とその環境、背景を知る。また、各教員の作家になるまでの経緯、作家としてのテーマや考え方、表現手法、素材の選択、今後の目標などを具体的に学び、各自の今後に活かす。美術各論は主に平面系創作者が担当する。	受講生は、教員の創作への様々な切り口を知り、創作の原点や創作方法を共有することから、学生自らの創作意識を高め、制作するときの考え方や実践に応用できるようにする。	0	60	120	0	0	0	40	80	0				
工芸各論	講義	2年以上	後期	2		創作者の思考と実践	1日1教員のオムニバス創作論。創作者としての目標、テーマ、考え方、素材の選択、表現の手法について、背景やキャリアを振り返りながら、学生の視点でわかりやすく紹介する。工芸各論は主に「素材」「技法」に関わりの深い領域の教員が担当する。	教員の創作の様々な切り口を知ることで、自身の制作について深く考えることができるようになる。	0	55	110	0	0	0	45	90	0				
コンピューター演習A	演習	2年以上	前期	2		展覧会DM、フライヤー、ポートフォリオなどの制作から入稿までの技術を身につける。	Adobe PhotoshopとIllustratorの基礎、印刷物入稿の基本的なルールを習得し、就職活動や作家活動など、セルフプロデュースできる力を身につける。	Adobe PhotoshopとIllustratorを使って印刷物の制作・入稿を出来るようにする。	0	0	0	60	120	0	40	80	0				
コンピューター演習B	演習	2年以上	後期	2		展覧会DM、フライヤー、ポートフォリオなどの制作から入稿までの技術を身につける。	Adobe PhotoshopとIllustratorの基礎、印刷物入稿の基本的なルールを習得し、就職活動や作家活動など、セルフプロデュースできる力を身につける。	Adobe PhotoshopとIllustratorを使って印刷物の制作・入稿を出来るようにする。	0	0	0	60	120	0	40	80	0				



【1-b】 美術工芸学科 総合造形コース カリキュラムマップ

人材育成目標 (学科)	
総合造形コースでは、さまざまな素材体験、技法、技術の修得を通し人間力の強化を目標におきます。課題ごとの合評、プレゼンを研究室全体で重視し、学生各々の自己開示能力をたかめ、社会還元ができる人材をめざします。ものづくりの体験から自己表現を確立。そしてキャリア要素の充実より次代を担う人材を育成します。	

創造力				人間力		
身の回りや広い世界を広く観察し、知識を蓄え的確に目標に迫る力	対象を多角的に分析し、自らの言葉で考え抜く力	表象に流されず、構造の認識を経て独自のビジョンに至る力	失敗を恐れず、自らのイメージを魅力的に伝える力	目標を定め、その実現のために行動を起こし、自らの可能性にチャレンジする力	人知れず営為を積み重ねる力	自らの意思を的確に伝えるだけでなく、多様な価値観に耳を傾け、他者との対話を継続する力

科目名	授業種別	履修学年・学期				単位		テーマ	授業概要	到達目標	創造力				人間力					
		1	2	3	4	必修	選択				探究力	思考力	発想・構想力	表現力	行動力	継続力	コミュニケーション力			
総合造形基礎Ⅰ/ 創造基礎ⅠD	演習	1			前期	2		素材と技法(土)の理解	「土」素材による造形体験。 土の素材に触れ、手ひねりの技法を通し、陶造形を試みる。	50	100	0	0	0	0	50	100	0		
総合造形基礎Ⅱ/ 創造基礎ⅡD	演習	1			前期	2		素材と技法(人体)の理解	ファンデーションコース間留学 ろくろ・たたら制作 フィギアの制作	40	80	0	0	40	80	0	20	40	0	
総合造形基礎Ⅲ/ 創造基礎ⅢD	演習	1			前期	2		素材と技法(首像)の理解	「人体構造」の理解と造形体験。 人体モデルを対象に、首像の比例・動性・量感の造形要素を理解し、粘土を素材に等身大で制作し造形力を身につける。	50	100	0	0	0	0	50	100	0		
総合造形基礎Ⅳ/ 創造基礎ⅣD	演習	1			後期	2		素材と技法(木)の理解	「木」素材による造形体験。 桶材を用い、木の素材感と形態感を習得する。	50	100	0	0	0	0	50	100	0		
総合造形基礎Ⅴ/ 創造基礎ⅤD	演習	1			後期	2		素材と技法(金属)の理解	「金属」素材による造形体験。 鉄素材を用い、切断・研磨・溶接の技術を学び、造形の幅を理解できる。	50	100	0	0	0	0	50	100	0		
総合造形基礎Ⅵ/ 創造基礎ⅥD	演習	1			後期	2		素材と技法(FRP)の理解	「プラスチック」素材による造形体験。 プラスチック素材の特性を理解し、FRP技法により造形の幅を理解できる。	50	100	0	0	0	0	50	100	0		
創造演習ⅠD	演習		2		前期	2		塗装を学ぶ	I) 塗装技術の習得と展示台制作。 II) 空間を意識した独自の展示方法をつかむ。 I) 合板を用いた木工技法と塗装技法による展示台を制作する。 II) サーフフェイス(表皮)をテーマに、オブジェ・展示台を合わせた展示空間を制作する。	0	0	0	0	50	100	0	50	100	0	
創造演習ⅡD	演習		2		前期	2		技法体験からの習得	さまざまな技法から自己の表現をみつける。 鑄造・木工旋盤。タタラ・ガラス・塗装。フェルトから選択し技法の技術を修得する。	50	100	0	0	50	100	0	0	0		
創造演習ⅢD	演習		2		前期	2		グループ制作体験	I) グループ内での相互理解を深め、目的を共有する。 II) コラボレーションの実現に向けた共働力を養う。 I) コミュニケーションを通し、共通の目的を築き、テーマ・制作・発表へのプロセスをプレゼンテーションする。 II) 1でのプレゼンテーションをもとに、互いの能力を生かし、協調と協力意識を築き制作する。	0	0	50	100	0	0	0	50	100		
創造演習ⅣD	演習		2		後期	2		フィギュアの制作	人形造形より、表現の多様性をつかむ 人形・フィギュアの造形から3D造形領域の幅を理解し立体表現の多様な可能性をみつける。	50	100	0	50	100	0	0	0	0		
創造演習ⅤD	演習		2		後期	2		インスタレーションの実践	インスタレーションの意味と現代の美術状況の知識を知識を深め、設置と空間の構成を独自の発想で表現方法を実践する。 彫刻・陶芸・ウルトラファクトリーの工房を各自の研究内容に応じて選択し、2年間の集大成として今までに培った技術・技法から自身の表現の確立を試みる。	40	80	0	0	0	0	40	80	20	40	
創造演習ⅥD	演習		2		後期	2		基礎過程の集大成	ミクストメディアによる造形と自己表現の展開。 基礎課程の集大成としてミクストメディアの領域より、多様な造形展開を試みる	0	0	50	100	50	100	0	0	0		
創造表現ⅠD	演習		3		前期	2		ゼミ指導による自己探求	それぞれの研究テーマを掲げて、自己の造形スキルアップを図る 各ゼミに分かれ、自己の表現スタイルの骨子を構築させ、素材と表現のマッチングを模索し、作品化する。	0	50	100	50	100	0	0	0	0		
創造表現ⅡD	演習		3		前期	2		環境と自己表現を学ぶ	自己表現能力の向上とプレゼンテーション力のアップ。 これまでに培った素材体験・技法・技術をもとに、自己表現を目指し、そのテーマ・制作・発表までのプロセスをプレゼンテーションする。	50	100	0	0	0	0	50	100	0		
創造表現ⅢD	演習		3		前期	2		展示空間の構成の理解	自己の作品の制作を通し、表現の可能性とその方向性を模索し、表現力を身につける。 創造表現Ⅱでのプレゼンテーションをもとに、より高い完成度を目指し、実制作します。また学内展示に向けた空間構成の共同作業を学習する。	50	100	0	0	0	0	50	100	0		
創造表現ⅣD	演習		3		後期	2		制作ノート作成	思考力・分析力の向上と持論展開をはかる。 作家研究を基盤に自らの研究テーマを掲げ、論述する能力を養います。	0	50	100	0	0	20	40	30	60	0	
創造表現ⅤD	演習		3		後期	2		表現研究の実習	構想、検討、制作、評価を経ての表現者としての立場を固める。 「表現者とは何か」をテーマに、作家例を調査・研究し、自己の表現を見つける。	0	0	50	100	0	0	50	100	0		
創造表現ⅥD	演習		3		後期	2		マロニエ展にむけて	対外的な展覧会・作品・発表を通じて、社会性を身につける。 工房制を踏まえ、各自の表現テーマに沿ってゼミ教員を選択する。個別指導により造形表現の方向性を見出す。その成果を対外的発表の場に求め、評価に繋げる。	0	0	50	100	0	30	60	0	20	40	
創造表現ⅦD	演習		4	前期	2			ゼミ展へのプランニング作成	アートギャラリー・野外展・四芸大合同陶芸展の実践を踏まえ、プランニングを行う。自分の構想内容を他者に伝える能力を築く。 アートギャラリー・野外展・四芸大合同陶芸展の実践を踏まえ、プランニングを行う。自分の構想内容を他者に伝える能力を築く。	0	50	100	50	100	0	0	0	0		
創造表現ⅧD	演習		4	前期	2			ゼミ展にむけての制作研究とその表現の実践	アートギャラリー・野外展・四芸大合同陶芸展の実践を向けて制作研究を図る。材料の手配、工具、道具について学ぶ。 アートギャラリー・野外展・四芸大合同陶芸展の各展覧会に出品。計画的に準備、設置するプロセスを学びます。卒業制作に向けた展望を図る。	0	0	50	100	30	60	0	20	40	0	
創造表現ⅧⅠD	演習		4	前期	2			芸術の社会還元の実践Ⅲ	ゼミ展出品展示と展覧会の実施の体験 アートギャラリー・野外展・四芸大合同陶芸展の各展覧会に出品。計画的に準備、設置するプロセスを学びます。卒業制作に向けた展望を図る。	0	0	0	0	50	100	20	40	30	60	
創造表現ⅧⅡD	演習		4	後期	2			卒業制作展への準備	卒制のプランニング作成。 卒業制作での制作作品から展示までのプロセスを理解してクオリティーのブラッシュアップを行います。またギャラリーとしての展示空間の構成を模索します。	0	50	100	20	40	30	60	0	0		
卒業研究・制作D	演習		4	後期	4			卒業研究	4年間で培った技術・技法・表現の集大成として、制作・展示・発表する。 工房制・ゼミ制の指導のもと、大学の展示空間を対象に、独自の造形世界をつくりだす。コンセプトはもちろん、鑑賞者からの問いにも応えられる自分の考えが発言できることが目標。 工研制・ゼミ制の指導のもと、大学の展示空間を対象に、独自の造形世界をつくりだす。コンセプトはもちろん、鑑賞者からの問いにも応えられる自分の考えが発言できることが目標。	0	0	20	80	30	120	30	120	0	20	80
総合造形基礎Ⅳ/ 創造基礎 (キャリア)	演習	1			前期	2		生活基本演習(基礎)	日常生活に不可欠のPCの使用を学ぶ。 PC実習としてphotoshopとIllustrator基礎を学ぶ。作品記録とポートフォリオ制作を将来の活動につなげる。	0	0	0	0	40	80	30	60	30	60	
総合造形基礎Ⅵ/ (キャリア)	演習	1			後期	2		観察力、表現力を学ぶ	身近なモチーフから人体クローキーへと描く対象物の着眼点を理解し、描く姿勢を学びます デッサン力を強化します。立体像形を育む上で描写力とそれにとまらぬ自己表現力を養う	30	60	0	0	40	80	0	30	60	0	

創造演習IVD(キャリア)	演習		2		前期	2	ポートフォリオ作成と技法実習	ポートフォリオに必要なスキルの学習や造形技法の体験実習を行います。	PC実習の応用編として実践的なテクニックを習得します。また造形技法の学習体験から、作品の完成度向上を目標に、ポートフォリオの作成を活用します。	50	100		0		0		0	50	100		0		
創造演習VMD (プロフェッショナル研究)	演習		2		後期	2	陶芸の型とりによるプロダクト制作実習	ろくろ、タタラの実習を経て、クラフトの要素を学び、用の造形を対象にした、型取りによる陶表現のプロダクトの表現要素を学ぶ。	外部機関の企業と連携し、作品制作とその商品化を試み、プロダクトとしての造形と量産可能であることの必然性を理解する。また社会体験の実践として黒田村にて穴窯体験を行う。	35	70		0		0		0	35	70		30	60	
創造表現IVD(キャリア)	演習			3	前期	2	ポートフォリオ・アーカイブの制作	学内で開催されるポートフォリオ展に向けて冊子を作成します。学科合同キャリア授業も行き、自身のコンセプトからどんな内容にするかのコンテンツを考え、魅力あるポートフォリオを作成します。	アーカイブ展、学科展に向けた、ポートフォリオの作成技術の向上と展示空間の構成能力を強化します。		0		0		0		50	100		0		50	100
創造表現VMD(キャリア)	演習			3	後期	2	美術館などを見学、自身の造形力の拡充とキャリアの方向性の探索	美術館、博物館、寺院の見学、企業の現場見学・研修をし芸術の表現領域の幅を広げ、今後の制作表現の方向性の明確化を位置付けて行く。また学科合同キャリア授業も開催し将来に向けた進路について検証する。	学外演習より芸術の社会性をテーマにもち、現地見学、自己の方向性を明確にします。同時に企業研究、進路研究を行い、将来の目標を掲げた今後の進路について明確にする。		0		0		0		50	100		0		50	100